



子どもたちは明日の本番に向けて、運動会練習を精一杯頑張ってきました。子どもたちの意識が高まり、気合いが入ってきたのを感じました。きっと一人一人が輝く運動会になると思います。

さて、今回は、運動会練習で大変な中に、リレーをよりよくしようと6年生が授業でチャレンジしました。興味深い授業実践についてお知らせします。

## 6年生 生活数理「リレーの作戦を考えよう」

単元の目標：単位量などの考えを使ってリレーの出走順を決め、タイムを縮めることができる。

算数の活用：何倍（50m 8秒→120mでは、 $8 \times (120 \div 50)$ ）

単位量（1mあたりのタイム×120m）

授業の様子【3時間（課題解決3時間＋実践）】

### 1 課題をつかみ、見通しを持つ

「1位になるために」「協力してタイムを縮めるために」と学級で提示されたためあては少し違いましたが、目的意識はバッチリ。生活数理の授業の成否は、ここにあると思いました。子どもたちがどれだけこだわれるかが大切の様です。目の色が変わりました。

条件は「19人で走る（2チーム）」「バトンゾーン（20m）を使う」だけでした。シンプルですが、子どもの思考の広がりが期待できました。



### 2 チームごとに作戦を立てよう

※あらかじめ、出走順は話し合っておく。



①走る長さを決める話し合い

②50m走のタイムをもとに自分の予想タイムを算出

③チームの予想タイムを算出

※走る長さを話し合い、予想タイムを出す姿の真剣なこと。互いにアドバイスも自然にできて、とてもよい姿でした。

## 【考えられる作戦】

おやい人が走っている時、次の人ができたらA首りに出る。そしてはがい人がはいている時はできたらけうしでとる。あとは、バトンのわたし。

子どもが考えた作戦例

※2組では、Aチームがタイムの速い遅いを交互にした出走順を決めていました。Bチームに比べてタイムがより縮まっていたので、その考えを使ってBチームが出走順を考え直し、予想タイムを縮めました。

### 3 実践してみよう

放課後の限られた時間で、実際に試してみました。計算していたようにうまくいかないのが実生活。バトンパスが特にうまくいきません。そのわけは、出走順がかみ合わない、コースをふくれて走る、バトンパスが外にふくれるなどでした。走った後、再度話し合い、出走順やバトンパスの仕方、走るコースなどを見つめ直しました。特に、コースをふくれて走るとどれだけ損するか、計算をして確かめることができました。



#### ② 今日の授業の感想を書きましょう。

走る時の外や内側かというので内側を走ること。バトンをわたす場所などを出しあって私は何の走るかも話しあったのでこれをもとにみんなと本堂に協力してやりこいと思いました。秒数も予想したので、成こうするようになりました。と思います。

子どもの振り返りの例

### 授業を振り返って

何より、子どもたちの意欲が高いことがポイントでした。特に、1組は、授業の様子を見に来た2組の渡邊先生が教室に入るのを全力で拒む（敵情視察とっていました）ほどでした。運動会の優勝を視野に入れた学級対抗がととても効果的でした。

話し合う中で、タイムによって走る長さを決めることやタイム順で交互に出走順を決めることに気づいていきました。中には、リレーが苦手でも、6年生最後だから長く走りたい人の思いは尊重したいという、生活数理ならではの意思決定もありました。

また、単位量あたりなどを使って、予想タイムを計算する時には、互いに助け合って考え方を確認するなどの活動が見られました。教え合いの中に、算数の活用能力が高まっていると思いました。

いよいよ運動会本番。生活数理の学習を生かした、6年生のすばらしいリレーが見られることと思います。大津小みんなで最高の運動会にします。